
休業中アイドルは
妊婦になっても
ひとりエッチがやめられない



「プロデューサーさんがお仕事に集中するのは、当然のことです。……頭では、理解しています。」

「ただ……休業中で時間を持て余している私の体に少し変化が起きているようで。……こうして、様子を確認しているだけですから。」

「お風呂上がりに、水分を拭き取る延長ですし……。決していやらしい意図は……。」



「ざらざらした布が……こんなに敏感になったところを……っ。」

「くっ……あ……。……だめ、です。タオルの粗い繊維でゴリゴリ擦れて、クリが……痺れて……っ。」

「は……っ。プロデューサーさんに、こんな無様な姿……絶対に見せられません……っ。」



「あ、擦れるっ、タオルの、ごわごわしたの、擦れっ……！」

「ひっ、あぁっ……！おかしくなっちゃう……！、最近ちっとも構ってくれないからっ……！」

「こんな布切れで、お股ゴシゴシして……っ、イクっ、イっちゃう、奥まで擦れてイクからぁっあ……！！」



「出産時の会陰裂傷を防ぐための、物理的なアプローチ……。海外では推奨されているメソッドです。」

「これはあくまで出産に向けた合理的なトレーニング……。プロデューサーさんに心配をかけないための、妻としての義務ですから。」

「少しずつ空気を入れて、粘膜を拡げていけば……。決して、いやらしい意味などありません。」



「単に空気を送り込んで、拡張しているだけのはずなのに……っ。」

「くっ……ふぁ……。圧迫感が、変なところを押し広げて……っ。ただのストレッチのはずなのに、どうしてこんなに……熱く……っ。」

「だめです……。これ以上ポンプを握ったら……たの、発情した雌豚に……っ。」



「あっ、だめっ……お腹が勝手にいきんで……っ！
拡がったお股から、ゴム、出ちゃうっ……！」

「ひぃっ、ああっ……！膣っ裂けるっ、おまんこ
いっぱいに広がって、出るっ……！プロデューサー
さんの赤ちゃんじゃないのにっ、産み落としちゃ
うぅっ……！」

「んっ、あぁああっ……！産道から、ゴム玉、産
まれたぁっ……！偽物の赤ちゃんでガバガバにさ
れてっ……おもちゃひりだして、出産アクメキメ
ちゃうぅぅっ……！」



「ファンの方々からの贈り物には、すべて目を通すのがプロの義務です。」

「ですから、このぬいぐるみの耐久性と実用性を確かめるのも……その一環です。」

「ファンの皆さんの愛をこうして、体で受け止めるなんて……とても効率的なファンサービスです。」



「く、ぁ……っ。自分で跨って、体重をかけるたびに……膣が、拡がって。……ファンのみんなが見たら、どんな顔をするでしょうか……。」

「だめ、です……。これ、ただの検品じゃなくて……私、ファンのプレゼントを性具にして、お股濡らして……っ。」

「あっ、だめっ、お腹の奥が熱い……！　熊にしがみついて、お股ぐりぐり擦りつけて……っ！」



「見てっ、プロデューサーさんっ……！　あなたがしてくれないからっ、ファンがくれた熊さんで、おまんこズプズプさせてるのぉっ……！」

「ひぁっ、ああっ……！　偽物のおちんぽで中かき回されてっ、熊さんに跨ったまま……おまんこドクドクしてイちゃうぅっ……！！」

「あぁっ、ファンの皆ごめんなさいっ……！　大切なプレゼント、おまんこ慰めるおもちゃにして……よだれ垂らして狂ってますぅっ……！　イクぅっ！！イクぅうっうっうっ！！」



「モーターの回転運動を、知識として実践しておくのは……脳のトレーニングになります。」

「プロデューサーさんが忙しくて、私を構う時間がないのは理解しています。ですから、こうして自作の機械で、効率よく欲求を処理しようかと……。」

「スイッチを入れるだけで全自動……。あくまで、私の工作技術のテストですからね。」



「手でやるのとは、全然ちが……っ。同じ場所を、執拗に、ぐるぐると削り取られていく感覚……っ。」

「くっ……ふぁ……っ！　まだ『弱』の回転なのに、中の敏感なところが全部巻き込まれて……っ。……おまんこの中が、ぐちゃぐちゃに練り上げられていくみたいで……。」

「ああっ、だめです……。回るたびに、頭の芯まで一緒にかき回されて……おかしくなりそう……っ。」



「あっ、だめっ、指が勝手に……『強』のボタンに……っ！最大回転で、中が壊れちゃうっ……！」

「ひゃあっ、ああっ、ああっ……！ぐるぐる回るっ、おまんこの奥を猛スピードで、えぐってくるぅっ……！止まんないっ、止めてぇっ……！」

「イクっ、ああっ……！回りすぎて狂うぅっ……！潮っ、出るっ……！おまんこから汁まき散らしながら、中ぐちょぐちょにしてイクぅうっ……！！」



「陣痛の間隔からして、間違いありません。……救急車を呼ぶより、ここで産む方がリスクが低いと判断しました。」

「学んだ通りのラマーズ法を実践するだけです。一人でも、立派に産んでみせます。」

「私はプロですから……。これくらいの痛み、論理的に考えれば、決して耐えられないものでは。」



「赤ちゃんが、降りてくる……っ。この、限界まで内壁を押し広げられる圧迫感は……っ。」

「ふぅーっ……ひっ、ぁ……っ。痛い、痛いのに……っ。気持ちいい？これまでの拡張の練習のせい、でしょうか……っ。」

「だめ……っ。赤ちゃんが通るたびに、中が擦れて……っ。痛いのに、お股が熱くて、トロトロになってきちゃった……っ。」



「あっ、頭が出るっ……！　股が裂けるくらい広がって……おまんこ、ぐちょぐちょ、赤ちゃんにぐいぐい広げられて……っ！……！」

「ひぐっ、ああっ、ああっ……！　プロデューサーさん、ごめんなさいっ……！　私、自分の赤ちゃん産んでるのに……おまんこ気持ちよくてイキそうですぅっ……！」

「イクっ、ああっ……！　赤ちゃんでぱんぱんに押し広げられてっ……おまんこガバガバにされながら……出産アクメでイクぅぅっ！！」

































